

学校教育ビジョン
 ・将来の夢や希望をもち、目標に向かって着実に努力し、互いに学び合う力をもった児童を育てる。
 ・夢の実現に向けて、基礎的・基本的学力や思考力・判断力・表現力をもった児童を育てる。
 ・自分の長所を自覚し伸ばすと共に、他の長所を認められる幅広い人間性をもった児童を育てる。
 ・ふるさとを愛し、人びとと共に地域や社会に貢献できる心身ともにたくましい児童を育てる。

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
教育課程・学習指導	基礎的・基本的な学力の定着と共に、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	家庭学習の充実を図める。 (家庭学習の手引きの活用) はげみ学習の充実を図る。 (活用力トレーニングシートの活用・書力の育成に向けた取組み) 指導法の工夫・改善に努める。	教務主任	はげみ学習や個別学習の取組みが、基礎的基本的な学力の定着につながっているが、思考する力、表現する力は十分とはいえない。 家庭学習、特に自学の取組に、個人差とマンネリ化が見られる。	【成果指標】 教師が基礎基本の定着と活用力の育成に努めることで、児童が学習が分かったと感じている。 【成果指標】 家庭で自主的に学習を取り組むことができた。	学習が分かったと感じている児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 家庭で、自主的に学習に取り組めたと感じる児童の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C・Dの場合は、指導法の改善を図る。	学期毎に、教員対象の調査及び児童の自己評価を実施する。
	学び合いを通して、自らを高める意欲をもった子どもを育てる。	一人一人の考えや思いをつなぐ学び合いの場を国語科だけでなく他教科・いろいろな活動場面においても意図的に設定する。	研究主任	意見交流の経験を積み上げてきたことで、比較して考えたり、考えを深め合ったりすることができるようになってきた。他教科でも活用しようとする姿が見られている。	【努力指標】 国語科及び他教科・他の活動場面において学び合いの場を意図的に設定する。	国語科以外の教科及び活動場面において学び合いの場を年間20回設定した教師の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合は指導法を改善する。	学期毎に、教員対象の調査を実施する。
生徒指導	明るいあいさつや返事ができ、何事にも努力し困難を乗り越えようとする子どもを育てる。	全校であいさつ運動に取り組み、意識を高める。 学習活動、特別活動等で、児童が能動的に活動する場を設けたり、活動の目標を持たせたりする。	生徒指導主事	全体的にあいさつをしようとする意識は高まってきているが、元気に明るいあいさつを進んでするという様子がまだ足りないように感じられる。 委員会や集会活動で主体的に活動する児童が増えてきたが、面倒なことや苦手なことになると消極的になってしまいう児童が見られる。	【成果指標】 気持ちよいあいさつしようとする意識する児童が増えた。 【満足度指標】 児童が能動的に活動する場を設けたり目標を設定せたりできたことである。	気持ちよいあいさつしようとする意識がもてた児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 児童が能動的に活動する場を設けたり目標を設定せたりできたこととする教員の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合は指導法を改善する。	児童及び教職員を対象にアンケートを実施
	自己肯定感をもつと共に、他の長所を認めることのできる子どもを育てる。	児童理解の場を適宜もち、児童個人及び全体の様子について共有する。	生徒指導主事	固定化された人間関係の中で悩みを抱えている児童が見られる。また、言葉が過ぎる児童が見られ継続して指導が必要である。	【努力指標】 児童個人及び全体の状況の把握に努めている。	児童の状況把握及び対策を十分にするための児童理解の会を A 年間12回以上実施した B 年間10回以上実施した C 年間8回以上実施した D 年間7回以下実施した	C・Dの場合は計画や内容を再検討する。	年度末に回数を調査
進路指導・生き方指導	三谷の自然や文化を理解し、ふるさとを愛する心を育てる。	地域の人材を活用した授業実践を紹介したり、学習経過を校内に掲示したりして、学習活動の充実を図る。	教務主任・道徳教育推進教師	人材活用ファイルや実践例を活用して職員が積極的に授業に取り組むことができるようになってきたが、学年間の系統性が整っていない。	【成果指標】 児童がふるさとの自然や文化を理解している。	ふるさとの自然や文化について理解できたとする児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は計画や内容を再検討する。	2月に職員の自己評価実施
	幅広いジャンルの本を読み、夢や希望と広い社会的視野をもった子どもを育てる。	司書や委員会を通じて積極的に本の紹介を行う。学校全体で読書の日を意識づけをはかるような取り組みを行っている。	図書館指導担当	昨年度までの取り組みの結果、学年に合った読書をできる児童が増えてきている。読書の楽しさを実感している児童も多い。だが、全体として図書室の利用は少ない。	【努力指標】 読書の日を中心に担任が意識して積極的に読書活動を取り入れたか	年間を通じ、積極的に読書活動を取り入れてきた学級担任の割合が A 全学級 B 4学級以上 C 3学級以上 D 3学級未満	C・Dの場合は取り組み方法を再検討する。	年度末に学級担任の自己評価を実施
安全管理	定期的な訓練や点検活動を充実させ、児童が安全に学校生活を送れるようにする。	年3回の避難訓練の実施。 毎月の安全点検の実施。	教頭・養護教諭	地震・火災・不審者避難訓練を年1回ずつ実施しており、実施時間をちがわせて行う工夫も行っている。	【努力指標】 様々な状況に対して教室以外からでも適切な避難行動ができるようつとめている。	様々な状況を想定した避難訓練(休み時間の訓練も含む)を A 年3回実施した。 B 年2回実施した。 C 年1回実施した。 D 実施しなかった。	C・Dの場合は、指導計画や内容を再検討する。	年度末に回数を調査
保健管理	自他の心身を大切に、自ら健康な心身をつくらうとする子どもを育てる。	家庭と連携しながら、望ましい生活習慣を確立する。 ・むし歯の予防と治療について家庭と連携しながら、取り組む。	保健主事・養護教諭	・望ましい生活習慣について、意識し生活してはいるが、身につけていない児童がいる。 ・むし歯治療率が、昨年度57%であった。	【成果指標】 望ましい生活習慣が身につけている児童が増えるよう努力している。 ・早期にむし歯治療をするように勧める。	望ましい生活習慣を意識し行動している児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 むし歯治療率 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C・Dの場合は、指導計画や内容を再検討する。	(生活習慣) 7月・12月に児童・保護者対象にアンケートを実施。 (虫歯治療率) ・10月に集計
特別支援教育	一人ひとりに応じた指導方法を研究すると共に、校内の協力体制を充実させる。	定期的(児童理解の会)に、気になる児童の現状を報告し合い職員間で共有する。また、外部講師を招き専門的な研修の場を設ける。	特別支援教育コーディネーター	今年度より特別支援学級ができ、これまで以上に専門的な研修の場を設ける必要が出てきている。	【努力指標】 特別支援教育の視点で、全ての児童に対して個に応じた指導を行っている。	特別支援教育の視点を参考にすべての児童に対して個に応じた指導の工夫・改善を行った職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	C・Dの場合は、指導計画や内容を再検討する。	年度末に級外を含職員に自己評価を実施
組織運営	トップダウン・ボトムアップ双方が機能するよう、校務分掌組織を活性化させる。	職員会議提案等について、「担当者 主任 校長・教頭」という流れを折々に確認することによって、企画・提案の質の向上を図る。	校長・教頭	職員会議提案等の流れを管理運営計画に明示してあるが、忙しさに紛れ、担当者が主任と協議することがあるおそくなることがある。	【成果指標】 担当分掌の業務について、主任と協議し企画・提案することができた。	主任と協議し企画・提案できたとする職員の割合が、 A 100% B 85%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は、次年度も同様の目標を掲げ、職員の意識の向上のためのさらなる方策を講じる。	年度末に、教諭・講師等7名を対象にアンケート調査を行う。
研修	学校研究をとおして教職員個々の資質・能力及び指導力の向上を図る。	指導主事や外部講師から学ぶ研修を充実させ授業改善に役立つようとする。	研究主任	全職員自主発表に向けて意欲的に研修に臨んでいる。授業改善を目指しているが、瞬時の対応の仕方など各々課題を抱えている。	【成果指標】 研修内容を生かして授業改善する。	研修内容を授業改善に役立てた割合が A 100%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合は、研修会の内容、持ち方を再検討する。	年度末に教職員を対象にアンケート調査を実施する。
保護者、地域との連携	地域を愛する心を育てるとのきずなを学ぶために、地域行事への参加を促すと共に地域の人材を教育活動の中で積極的に活用していく。	三谷地区町づくりや子供会・育友会との連携を図り、諸活動に協力する。愛鳥モデル校としての取り組みを継続する。	校長・教頭	毎年活動内容が検討、改善され定着してきている。	【満足度指標】 地域や家庭の意見を取り入れることにより、地域に親しみの持てる活動になっている。	保護者が各活動に対して満足している割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合は、計画を検討する。	7・12月に保護者対象にアンケートを実施
教育環境整備	学びの場として相応しく心温まる掲示等の校内環境を充実させる。	各学年や委員会の活動がわかる掲示となるよう働きかける。	教頭・掲示指導担当	掲示板の改善、担当場所の明確化がされた。	【満足度指標】 教育環境を意識した掲示に取り組んでいる。	教職員が学びの場としてふさわしい環境(掲示を含む)であると判断している割合が A 100%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C・Dの場合は、計画を検討する。	年度末に教職員を対象にアンケート調査を実施